<table>
<tr><th rowspan="2">番号
観点</th><th>発行者の番号・略称</th><th>使用学年・分野</th><th>教科書の記号・番号</th><th>教科書名</th></tr>
<tr><td>２・東書</td><td>第１・２・３学年</td><td>保体・002-72</td><td>新編　新しい保健体育</td></tr>
<tr><td>取扱内容

学習指導要領の総則及び各教科の目標，内容等</td><td colspan="4">○　保健分野の目標を達成することができるよう，次のような学習活動が取り上げられている。
・「健康な生活と疾病の予防」については，健康や疾病に関わる主体要因についての資料を基に，どのように健康状態を保持できるようにするかを考えたり，がんの発生の仕方や要因などについて調べたりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動
・「心身の機能の発達と心の健康」については，性衝動や性情報の学習を基に，事例の背景や問題点を話し合ったり，ストレスへの対処について，リラクセーションの方法を実習を通して身に付けたりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動
・「傷害の防止」については，様々な事故や災害についての具体的な資料を基に，その要因や回避の方法を考えたり，応急手当の具体的な方法について，資料を見て確認したことを実習を通して理解したりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動
・「健康と環境」については，環境の変化に対する体の適応能力について，具体的な事例を基に考えたり，廃棄物の衛生的管理について，学習したことを基に，個人で取り組むことができる対応を考えたりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動

○　体育分野の目標を達成することができるよう，次のような学習活動が取り上げられている。
・運動やスポーツへの関わり方について，写真や例示を基に考えたり，スポーツの文化的意義について，スポーツが自分たちの生活をよりよくしている事例を基に話し合ったりする活動を通して，運動やスポーツへの多様な関わり方や現代社会におけるスポーツの文化的意義について理解するとともに，自己の課題を発見し，よりよい解決に向けて思考，判断し，他者に伝えるなどの学習活動

○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については，次のような学習活動が取り上げられている。
・保健分野については，健康な生活と疾病の予防の学習において，学習課題を設定し，生徒に見通しをもたせるとともに，「課題の解決」で資料などにより調べた喫煙・飲酒・薬物乱用の要因などの知識を基に，適切な対処の方法について話し合い，「広げる」で社会の取組についてさらに調べるなど，自分の考えを広げたり，深めたりする活動
・体育分野については，運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方の学習において，学習課題を設定し，生徒に見通しをもたせるとともに，「課題の解決」で運動やスポーツの効果を資料等を基に考え，みんながスポーツを楽しむための工夫について話し合い，「広げる」で運動やスポーツの効果を日常生活でどのように役立てるかをさらに考えるなど，自分の考えを広げたり，深めたりする活動</td></tr>
<tr><td>内容の構成・排列，分量等</td><td colspan="4">○　内容の構成・排列については，次のような工夫がなされている。
・保健分野については，小学校で学習した病気の予防や地域の保健活動について振り返る学習をした後に，感染症の発生要因や予防策，保健・医療機関の有効な利用や医薬品の正しい使用を取り上げるなど，系統的・発展的に学習できるような工夫
・体育分野については，第１学年で運動やスポーツへの多様な関わり方をした後に，現代社会におけるスポーツの文化的意義，スポーツが果たす文化的役割を取り上げるなど，系統的・発展的に学習できるような工夫。</td></tr>
</table>

	○　内容の分量については，「健康な生活と疾病の予防①」は 14 ページ，「心身の機能の発達と心の健康」は 28 ページ，「健康な生活と疾病の予防②」は 20 ページ，「傷害の防止」は 22 ページ，「健康な生活と疾病の予防③」は 20 ページ，「健康と環境」は 20 ページ，「運動やスポーツの多様性」は 11 ページ，「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」は 11 ページ，「文化としてのスポーツの意義」は 10 ページであり，総ページ数は 198 ページで，前回より約４％減となっている。
使用上の 配慮等	○　巻頭に「ＳＤＧｓ」「テクノロジー」「情報」を切り口とした口絵を掲載したり，各章末に章の学習に関連した資料を取り上げたりするなど，生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　日常経験や既習事項を基に考える・話し合う学習活動を位置付けたり，習得した知識・技能を活用するようにしたりするなど，主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　学習の流れが一目で分かるレイアウトにすることで学習の見通しをもてるようにしたり，全ての生徒が学習しやすいよう，配色やデザインに配慮したりするとともに，１人１台端末を活用した学習活動として，「Ｄマーク」（二次元コード）を掲載するなど，使用上の便宜が図られている。
指導上の 配慮等	○　地域素材については，巻頭の「私たちの未来とＳＤＧｓ」で北海道の少年野球チームによるバット用木材の植樹活動，「運動やスポーツへの多様な関わり方」で北海道マラソンの様子，章末資料の「地球温暖化による健康や安全への影響」で網走市の流氷の様子などが扱われている。 ○　ＩＣＴの活用については，デジタルコンテンツを通して実写やアニメーション，疑似体験のための動画，資料・図鑑を閲覧できるほか，思考ツールのダウンロードにより，思考の整理ができるよう工夫がなされている。 ○　小中連携による指導については，各章の扉に小学校に関連する学習内容が明記されているほか，小学校の学習を振り返ることができる動画にアクセスできるよう工夫がなされている。
本市生徒の 学習の状況等	○　健康の保持増進や体力の向上を目指し，運動やスポーツの習慣化を図ることができるよう，運動やスポーツの楽しさや効果，関わり方等を示すグラフや写真などの資料のほか，生活に活用できる資料をまとめた「巻末スキルブック」を数多く取り上げる工夫がなされている。 ○　健康・安全に関する習得した知識・技能を活用して，思考・判断したことを表現する力を育むことができるよう，「活用する」において，図・イラストなどの資料や身近に起こりそうな事例から，自分の考えを説明したり話し合ったりする活動を設定する工夫がなされている。 ○　心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容やストレス対処，心肺蘇生法等について正しく理解することができるよう，事例などを用いたディスカッションや，写真・イラストを用いた実習について取り上げる工夫がなされている。
その他	

<table>
<tr><th rowspan="2">観点＼番号</th><th>発行者の番号・略称</th><th>使用学年・分野</th><th>教科書の記号・番号</th><th>教科書名</th></tr>
<tr><td>４・大日本</td><td>第１・２・３学年</td><td>保体・702</td><td>中学校保健体育</td></tr>
<tr><td>取扱内容

学習指導要領の総則及び各教科の目標，内容等</td><td colspan="4">○　保健分野の目標を達成することができるよう，次のような学習活動が取り上げられている。
・「健康な生活と疾病の予防」については，自分の健康を左右する要因について，主体と環境に分けて書き出したり，喫煙や飲酒，薬物乱用のきっかけについて話し合ったりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動
・「心身の機能の発達と心の健康」については，中学生の時期に特に発育・発達する器官とその特徴について書き出したり，ストレスへの対処について，リラクセーションの方法を実習を通して身に付けたりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動
・「傷害の防止」については，地域で起こりやすい自然災害に対する備えや自然災害が発生した際の行動について調べたり，傷病者を発見した際の行動について話し合ったりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動
・「健康と環境」については，温熱条件や明るさの至適範囲について考え，教室の気温や湿度，明るさなどを調べたり，廃棄物を減らすための家庭や地域での取組について話し合ったりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動

○　体育分野の目標を達成することができるよう，次のような学習活動が取り上げられている。
・運動やスポーツを行うことによる心身への効果について話し合ったり，国際的なスポーツ大会と国際親善や世界平和との結び付きについて考えたりする活動を通して，運動やスポーツが心身や社会性の発達におよぼす効果や，国際的なスポーツ大会の文化的な役割について理解するとともに，自己の課題を発見し，よりよい解決に向けて思考，判断し，他者に伝えるなどの学習活動

○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については，次のような学習活動が取り上げられている。
・保健分野については，健康な生活と病気の予防の学習において，学習課題を設定し，生徒に見通しをもたせるとともに，「話し合ってみよう」で資料を参考に，がんにかかりにくくするための方法を話し合い，「活用して深めよう」で身近な大人に向けたがんに対する行動のアドバイスを考えるなど，自分の考えを広げたり，深めたりする活動
・体育分野については，運動やスポーツの多様性の学習において，学習課題を設定し，生徒に見通しをもたせるとともに，「話し合ってみよう」で資料を参考に運動やスポーツへの関わり方にはどのような楽しさや魅力があるかを話し合い，「活用して深めよう」で自己の今後の運動やスポーツとの関わり方について考えるなど，自分の考えを広げたり，深めたりする活動</td></tr>
<tr><td>内容の構成・排列，分量等</td><td colspan="4">○　内容の構成・排列については，次のような工夫がなされている。
・保健分野については，小学校で学習した思春期の体の変化等について振り返る学習をした後に，体と心の発達，ストレスへの対処の仕方を取り上げるなど，系統的・発展的に学習できるような工夫
・体育分野については，第１学年で運動やスポーツへの多様な関わり方を学習をした後に，国際的なスポーツ大会の文化的な役割，人々を結び付けるスポーツの文化的な働きを取り上げるなど，系統的・発展的に学習できるような工夫</td></tr>
</table>

	○　内容の分量については「健康な生活と疾病の予防①」は 14 ページ，「心身の機能の発達と心の健康」は 25 ページ，「健康な生活と疾病の予防②」は 18 ページ，「傷害の防止」は 29 ページ，「健康な生活と疾病の予防③」は 18 ページ，「健康と環境」は 18 ページ，「運動やスポーツの多様性」は 12 ページ，「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」は 16 ページ，「文化としてのスポーツの意義」は 11 ページであり，総ページ数は 196 ページで，前回とほぼ同様となっている。
使用上の 配慮等	○　巻頭に魅力のある写真や現代的なテーマの口絵を掲載したり，学習内容に関連した「トピックス」や「ミニ知識」を取り上げたりするなど，生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　複数の資料を比べて読み取る活動を位置付けたり，友達と話し合うなど，対話を通して思考を広げ，深められるようにしたりするなど，主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　色覚の違いによって学習に支障が出ることがないよう色遣いを工夫したり，ユニバーサルデザインフォントを使用したりするとともに，１人１台端末を活用した学習活動として，「ＷＥＢマーク」（二次元コード）を掲載するなど，使用上の便宜が図られている。
指導上の 配慮等	○　地域素材については，口絵「世界で活躍する人々を支える健康」で北海道出身のパラリンピック選手・重本沙絵さんのコメント，資料「自然災害の脅威」で胆振東部地震，資料「オリンピックパラリンピックについて知ろう」でオリンピック札幌（冬季）大会の様子が扱われている。 ○　ＩＣＴの活用については，Ｗｅｂ上で外部サイトを閲覧できるほか，知識を整理するためのまとめの問題を掲載するなどの工夫がなされている。 ○　小中連携による指導については，各章の扉において，小学校で学習したことを簡潔に示すとともに，中学校の学習への系統性を意識できるよう工夫がなされている。
本市生徒の 学習の状況等	○　健康の保持増進や体力の向上を目指し，運動やスポーツの習慣化を図ることができるよう，章末の「学びを活かそう」では，学習したことを活かしながら自分の生活について考える活動を設定する工夫がなされている。 ○　健康・安全に関する習得した知識・技能を活用して，思考・判断したことを表現する力を育むことができるよう，「話し合ってみよう」では，自分の考えを伝えたり，友達の考えを聞いたりする活動を設定する工夫がなされている。 ○　心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容やストレス対処，心肺蘇生法等について正しく理解することができるよう，折り込みページで実習を取り上げる工夫がなされている。
その他	

観点＼番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	50・大修館	第１・２・３学年	保体・050-72	最新　中学校保健体育
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科の目標，内容等	○　保健分野の目標を達成することができるよう，次のような学習活動が取り上げられている。 ・「健康な生活と疾病の予防」については，運動と健康の関連についての資料を基に，自分の運動習慣の改善方法を考えたり，病原体から体を守る仕組みなどを調べ，抵抗力を高める方法を整理したりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動 ・「心身の機能の発達と心の健康」については，心の働きの学習を基に脳の働きの違いについて話し合ったり，ストレスへの対処について，リラクセーションの方法を実習を通して身に付けたりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動 ・「傷害の防止」については，けがが起こる要因についての学習を基に，事例について危険回避のための工夫や対策を話し合ったり，止血法，包帯法や固定法について，実習を通して身に付けたりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動 ・「健康と環境」については，気象情報を利用し，どのように健康被害を防ぐかを考えたり，ゴミが衛生的に処理されなかった場合の健康に及ぼす影響について話し合ったりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動 ○　体育分野の目標を達成することができるよう，次のような学習活動が取り上げられている。 ・運動やスポーツを安全に行うために気を付けることを確認したり，生涯にわたってスポーツに親しむことの大切さについて話し合ったりする活動を通して，運動やスポーツの安全な行い方や現代生活におけるスポーツの文化的な意義について理解するとともに，自己の課題を発見し，よりよい解決に向けて思考，判断し，他者に伝えるなどの学習活動 ○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については，次のような学習活動が取り上げられている。 ・保健分野については，健康な生活と疾病の予防の学習において，学習課題を設定し，生徒に見通しをもたせるとともに，「身につける・考える」で資料を基に体の各器官の発育・発達の特徴について理解し，「まとめる・振り返る」でよりよい発育・発達のために，今の生活の改善点を考えるなど，自分の考えを広げたり，深めたりする活動 ・体育分野については，運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方の学習において，学習課題を設定し，生徒に見通しをもたせるとともに，「身につける・考える」で映像資料等を基に運動やスポーツの心と体への効果について理解し，「まとめる・振り返る」で自分の体力の状態を見直し，体力を高めるための計画を立てるなど，自分の考えを広げたり，深めたりする活動			
内容の構成・排列，分量等	○　内容の構成・排列については，次のような工夫がなされている。 ・保健分野については，小学校で学習した日常生活の行動が原因となる病気等について振り返る学習をした後に，生活習慣の健康への影響，喫煙・飲酒・薬物の誘惑を断る具体的な方法を取り上げるなど，系統的・発展的に学習できるような工夫 ・体育分野については，運動やスポーツの楽しさや関わり方を学習をした後に，運動やスポーツの体と心への効果，スポーツの国際大会の意義と役割を取り上げるなど，系統的・発展的に学習できるような工夫 ○　内容の分量については，「健康な生活と疾病の予防①」は 14 ページ，「心身の機能の発達と心の健康」は 32 ページ，「健康な生活と疾病の予防②」は 22 ページ，「傷			

	害の防止」は 26 ページ，「健康な生活と疾病の予防③」は 24 ページ，「健康と環境」は 22 ページ，「運動やスポーツの多様性」は 12 ページ，「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」は 16 ページ，「文化としてのスポーツの意義」は 12 ページであり，総ページ数は 206 ページで，前回より約４％増となっている。
使用上の配慮等	○　巻頭の口絵で現代社会の中で，健康課題として浮上しているテーマを取り上げたり，今日的な課題をコラムや特集資料として掲載したりするなど，生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　互いの考えの共有や思考を広げるための対話的な活動を位置付けたり，学習したことを基に考えを伝える・日常生活に生かす活動を位置付けたりするなど，主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　学習の流れが把握しやすいようレイアウトすることで見通しがもてるようにしたり，様々な色覚の特性に対応したカラーデザインに配慮したりするとともに，１人１台端末を活用した学習活動として，「ｗｅｂ保体情報館」（二次元コード）を掲載するなど，使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○　地域素材については，「運動やスポーツの多様性」で室蘭市のマラソン大会の様子，「健康な生活と病気の予防①」で札幌市や帯広市の学校生活の様子，「自然災害によるけがの防止」で胆振東部地震の災害の様子，「私たちの生活と環境問題」で北海道新聞の紙面が扱われている。 ○　ＩＣＴの活用については，Ｗｅｂ上において，調べ学習に役立つサイトやワークシートを掲載するとともに，クイズにより学習を振り返り，確認することができるよう工夫がなされている。 ○　小中連携による指導については，各章の扉に「小学校で学習したこと」「中学校で学習すること」が明示され，系統性を意識できるよう工夫がなされている。
本市生徒の学習の状況等	○　健康の保持増進や体力の向上を目指し，運動やスポーツの習慣化を図ることができるよう，ライフステージや興味・関心，能力に応じたスポーツへの関わり方を写真やイラストを用いて紹介するなどの工夫がなされている。 ○　健康・安全に関する習得した知識・技能を活用して，思考・判断したことを表現する力を育むことができるよう，「学習のまとめ」では，知識や考えをまとめて発表する活動を設定する工夫がなされている。 ○　心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容やストレス対処，心肺蘇生法等について正しく理解することができるよう，事例などを用いたディスカッションや，写真・イラストを用いた実習について取り上げる工夫がなされている。
その他	

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	224・学研	第１・２・３学年	保体・224-72	新・中学保健体育
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科の目標，内容等	○　保健分野の目標を達成することができるよう，次のような学習活動が取り上げられている。 ・「健康な生活と疾病の予防」については，生活習慣病の要因についての資料を基に調べ，自分の生活を振り返ったり，感染症について，感染経路や予防方法について調べ，日常の過ごし方について交流したりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動 ・「心身の機能の発達と心の健康」については，思春期の体の変化はどのような仕組みで起こるのかについての資料を基に考えたり，ストレスへの対処について，リラクセーションの方法を実習を通して身に付けたりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動 ・「傷害の防止」については，傷害の要因や回避の方法について，自身の体験を基に話し合ったり，自然災害から身を守るための備えや発生時の行動について，具体例を基に考えたりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動 ・「健康と環境」については，環境の変化と適応能力を超えた環境の例を調べたり，水の役割や飲料水の確保についての学習を基に，身近なもので水を浄化する方法について考えたりするなど，課題を見付け，その解決を目指した活動 ○　体育分野の目標を達成することができるよう，次のような学習活動が取り上げられている。 ・目的や年齢，性別などの違いを超えて楽しむことができる運動やスポーツの行い方について話し合ったり，自分が安全にスポーツ活動を行うためのチェック項目を考えたりする活動を通して，スポーツの多様な楽しみ方やスポーツの安全な行い方について理解するとともに，自己の課題を発見し，よりよい解決に向けて思考，判断し，他者に伝えるなどの学習活動 ○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については，次のような学習活動が取り上げられている。 ・保健分野については，健康な生活と病気の予防の学習において，学習課題を設定し，生徒に見通しをもたせるとともに，「エクササイズ」で飲酒開始年齢とアルコール依存症の関係性についてのグラフから，20 歳未満の飲酒の害について話し合い，「学びを生かす」で実践的な場面を想定した事例における飲酒の断り方を考えるなど，自分の考えを広げたり，深めたりする活動 ・体育分野については，スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方の学習において，学習課題を設定し，生徒に見通しをもたせるとともに，「エクササイズ」でキーワードを基にスポーツが心身や社会に及ぼす効果について調べる・話し合う活動を行い，「学びを生かす」で自分がスポーツを日常的に行ったときの効果について考えるなど，自分の考えを広げたり，深めたりする活動			
内容の構成・排列，分量等	○　内容の構成・排列については，次のような工夫がなされている。 ・保健分野については，小学校で学習した体をよりよく発育・発達させるための生活等について振り返る学習をした後に，健康づくりのための運動の行い方，調和のとれた生活を取り上げるなど，系統的・発展的に学習できるような工夫 ・体育分野については，第１学年でスポーツへの多様な関わり方を学習をした後に，スポーツの効果的な学び方，スポーツの文化的意義を取り上げるなど，系統的・発展的に学習できるような工夫			

	○　内容の分量については，「健康な生活と疾病の予防①」は 16 ページ，「心身の機能の発達と心の健康」は 28 ページ，「健康な生活と疾病の予防②」は 22 ページ，「傷害の防止」は 28 ページ，「健康な生活と疾病の予防③」は 18 ページ，「健康と環境」は 20 ページ，「運動やスポーツの多様性」は 12 ページ，「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」は 12 ページ，「文化としてのスポーツの意義」は 14 ページであり，総ページ数は 206 ページで，前回とほぼ同様となっている。
使用上の 配慮等	○　巻頭の口絵でスポーツの魅力や価値を感じられる写真等を掲載したり，各章の扉にこれから学びたいことや学んだことを表現する欄を設けたりするなど，生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　学習した知識・技能や情報を基にした協働的な活動を通して，課題の解決を進められるようにしたり，学んだことを基にして取り組む実践的な課題を取り上げたりするなど，主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　配色，表現・レイアウトについて，誰もが見やすく，わかりやすい内容となるように配慮したり，ユニバーサルデザインフォントを使用したりするとともに，１人１台端末を活用した学習活動として，「教科書サイト」（二次元コード）を掲載するなど，使用上の便宜が図られている。
指導上の 配慮等	○　地域素材については，「スポーツの多様性　探求しようよ」で札幌市の生徒の様子やスキージャンプの技術の変化，「文化としてのスポーツ　探求しようよ」でオリンピック冬季・札幌大会の様子が扱われている。 ○　ＩＣＴの活用については，「章デジ」を設け，各章の内容に関連する外部サイトやワークシート，動画等にアクセスできるよう工夫がなされている。 ○　小中連携による指導については，各章の扉において，小学校で学習したことを簡潔に示すとともに，中学校の学習への系統性を意識できるよう工夫がなされている。
本市生徒の 学習の状況等	○　健康の保持増進や体力の向上を目指し，運動やスポーツの習慣化を図ることができるよう，興味・関心を高める発問を提示しているほか，「章のまとめ」において，学習したことを生活に活用することについて考える活動を設定するなどの工夫がなされている。 ○　健康・安全に関する習得した知識・技能を活用して，思考・判断したことを表現する力を育むことができるよう，「学びを活かす・学びの活用」では見方・考え方を明示し，学習を通して理解したことを活用し，まとめたり伝えたりする活動を設定するなどの工夫がなされている。 ○　心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容やストレス対処，心肺蘇生法等について正しく理解することができるよう，事例などを用いたディスカッションや，写真・イラストを用いた実習について取り上げる工夫がなされている。
その他	